

大学の授業で学生にリポートを提出してもらおうと、しばしば同じようなリポートが出てくる。友達のリポートを写すことは問題外だが、そうした「盗作」ではなくても同じようなリポートになることがある。多くの学生がインターネットを利用してリポートをまとめるからだ。時々、同じような間違いをしている学生が多く出ることがあり、間違ったインターネットの記事を参考にしたことがバレている。

いずれにしても、大学の教師にとって学生のリポートを評価することが難しい時代になった。ただ、学生の側から言わせれば、インターネットを利用していろいろ調べることは有意義なことであり、そのどこが悪いのか、ということになる。インターネットの情報をフルに利用する学生と、リポートの質を正確に判断しようという教員の間で、微妙な綱引きが続いている。

問題は、技術の方が飛躍的に進歩

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

論壇

を続けていることだ。今、世界的に注目されている「チャットGPT」と呼ばれるAI(人工知能)を活用したサービスでは、質問を入れると驚くほど正確で適切な回答が戻ってくる。AIを搭載したシステムが、ネット上のさまざまな情報を検索して、最適と思われる回答を作成してくれる。英語の文書のケースでは、ほぼ完璧な内容であると驚きの声が上がっている。日本語ではまだ7割

チャットGPTと教育

程度レベルであるとある専門家が言っていたが、これもAIが日本語のウェブのデータで学習を続けることで、その精度が上がってくることは間違いない。

いろいろなことを調べ、頭を絞って分析し、そしてそれを1200字に苦勞してまとめている。しかし、チャットGPTなどの精度が上がれば、例えば「植田日銀総裁の下で金融政策はどう変わるのか」と質問を入れて字数の制約を指示するだけで、完璧な原稿が出てくるようになる。こうした技術が私たちの生活を豊かにする面があることは間違いないだろう。ただ、その技術に頼るこ

とで、私たちの能力が著しく劣化するということもなるだろう。子供の頃から何でも答えをAIに求めることができるのであれば、自分で考えることができないう人間が育ってしまう。ちょうど、いつも車やバスで移動している子供の体力が劣化するのと同じだ。だから、車社会になるほど、運動能力を維持することの重要性が増す。

知的能力にも運動能力に似たところがある。努力して鍛えていかないと、機械に頼りきりの能力の欠如した人になってしまう。だから、子供にはチャットGPTの利用を制限させるべき、という議論もあるようだ。少なくとも、学校でのリポートではチャットGPTを利用してほしくない。さらには、読む能力、書く能力、クラスで議論する能力を、AIを利用しないで鍛えることは必要だろう。特に、知能の伸びる時期である子供にはそうあってほしい。

そうは言っても、AIをどう使いこなすかということも重要だ。ある人がAI(Artificial Intelligence: 人工知能)では、IA(Intellectual Application: 知的な利用)が重要であると言っていた。AIを社会にどう取り込んでいくのか、特に教育との関係について、真剣に考える事態になっている。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。